

# 2022 研修計画



鶴岡市立農業経営者育成学校

2022年4月1日現在

## 目 次

### 【1年生】

A	オリエンテーション	・・・	1 ページ
B	農業経営	・・・	2 ページ
C	農業の基礎知識	・・・	6 ページ
D	農業機械講習	・・・	11 ページ
E	農業関係法令・認証	・・・	12 ページ
F	視察研修	・・・	14 ページ
G	就農・定住支援	・・・	14 ページ
H	集合研修	・・・	16 ページ
I	ふりかえり	・・・	17 ページ
J	外部講義	・・・	17 ページ
K	一般公開講座	・・・	19 ページ
L	実習	・・・	20 ページ

### 【2年生】

A	オリエンテーション	・・・	21 ページ
B	農業経営	・・・	22 ページ
C	農業技術	・・・	24 ページ
F	視察研修	・・・	27 ページ
G	就農・定住支援	・・・	27 ページ
H	集合研修	・・・	29 ページ
J	外部講義	・・・	30 ページ
L	実習	・・・	30 ページ

※研修カリキュラムは変更になる場合があります。

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
A-1	1年生	必修	座学	6.0	SEADS事務局
到達目標	SEADS研修生としての自覚を持つ。また、SEADS研修生として「学んでいく」「地域に入っていく」素地を身に付ける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
オリエンテーション	SEADS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入校式</li> <li>・ガイダンス</li> <li>・修了式</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入校式</li> <li>2. ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者紹介</li> <li>・研修について</li> <li>・生活について</li> <li>・研修生としてのマインドセット</li> </ul> </li> <li>3. 修了式</li> </ol>		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
A-2	1年生	必修	座学	3.0	・農政課・観光物産課・食文化創造都市推進課
到達目標	鶴岡市の理解を深める。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
オリエンテーション	鶴岡学	鶴岡市の紹介	第1回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市の農業について</li> </ul> 第2回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市の観光について</li> <li>・鶴岡市の食文化について</li> </ul>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
A-3	1年生	必修	座学	7.5	SEADS協定事業者代表
到達目標	「農業の人材育成・確保に関する協定」締結8者のうち、5事業者代表による講話を通して、学校の意義・役割、自分たちがどんな期待を受けているか把握する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
オリエンテーション	協定者代表の講話	協定代表者	1. 鶴岡市長 2. 東北芸術工科大学 3. J A鶴岡組合長 4. J A庄内たがわ組合長 5. ヤマガタデザイン代表取締役 (順不同)		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-1	1年生	必修	座学	12.0	講師；(株)食農夢創/ヤマガタデザイン(株)
到達目標	経営者に必要な基礎スキルである、ロジカルシンキングと数字で考える力を身に着け、その後の研修等で自分の考えを整理することができる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	経営スキル	第1回 ロジカルシンキング研修1 第2回 ロジカルシンキング研修2 第3回 数字で考える力① 第4回 数字で考える力②		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-2	1年生	必修	座学	6.0	ヤマガタデザイン (株)
到達目標	生産者と消費者をつなぐ流通業界等の視点を知り、市場優位な農作物や、今後の消費の動向などについての動向がわかる。 講義で繋がりをつくり、就農後も継続して情報収集ができるようになる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	農産物の販売戦略	(ネット) スーパー、仲卸、産直、EC等様々な流通関係者からの現在の農産物の販売実態について学ぶ。		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-3	共通	必修	座学	1.5	SEADS校長
到達目標	SEADSでの研修を通して農業者としての心構えを身につける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	講話I	SEADS校長から経営や地域課題等についてのテーマを出し、そのテーマをもとに自身が課題に思っているテーマ等について考える。		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-4	1年生	必修	座学	6.0	講師は、農業分野にかかわらずオムニバスのに選任する。
到達目標	経営者としての心構えを身につける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	講話II	地域の経営者/起業家（農業に限らない）から講演をいただき、経営者として、何を目指し、どのような事業をおこなっているのかを聞き、自身の農業経営について考える。		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-5	1年生	必修	座学	6.0	・農業技術普及課・JA鶴岡・JA庄内たがわ
到達目標	稼げる農業の実現に必要な能力を養うため、事業計画の作り方、農業経営に必要な考え方を学び、独立就農時の農地・資金・販路・人手の確保について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	営農計画書作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農計画作成にあたり、農業経営の実態を学ぶ。</li> <li>・地域別、地帯別における推奨品目やその品目生産にかかる労働分配や連作障害等について学ぶ。</li> </ul>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-6	1年生	必修	座学	4.5	日本政策金融公庫
到達目標	稼げる農業の実現に必要な能力を養うため、事業計画の作り方、農業経営に必要な考え方を学び、独立就農時の農地・資金・販路・人手の確保について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	営農計画書作成	営農資金調達の観点からの営農計画づくりを学ぶ。		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-7	1年生	必修	座学	15.0	(株) With Famer
到達目標	稼げる農業の実現に必要な能力を養うため、事業計画の作り方、農業経営に必要な考え方を学び、独立就農時の農地・資金・販路・人手の確保について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	営農計画書作成	1. 経営の基礎 (1) 農業で“稼ぐ”とは？ (2) 売上とコストの考え方 ～経営シミュレーション：施設園芸～ (3) 事例分析 ～経営シミュレーション：稲作経営～		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-1	1年生	必修	座学	6.0	大場伸一
到達目標	1. 農村で農業に取り組む意味を考える。 2. 有機農業技術の基本を理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	有機農業の基礎	総論	1. 農村の暮らしと農業を知る。(I) (集落の仕組み、暮らしと農業生産の関りを理解する) 2. 農村の暮らしと農業を知る。(II) 3. 有機農業を定義できるか。 (慣行的農業の中の有機農業の位置付けを理解する) 4. 有機農業技術の考え方(広く環境に配慮した技術の基本を理解する)		
教材	「有機農業大全」澤登早苗・小松崎将一編著 コモンズ				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-2	1年生	必修	座学	6.0	栗田公司
到達目標	1. 植物分類からみた栽培植物の位置づけ、育種手法と品種改良の効果を理解する。 2. 植物の形態の多様性、とその農業に必要な用語を理解する。 3. 植物の環境と生理現象を理解する				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	有機農業の基礎	植物生理I	1. 植物の分類法と栽培植物の位置づけ ・形態的特徴による分類 ・DND解析による分類法 ・主な作物の植物としての位置づけ 2. 育種の方法と改良の効果 ・選抜法、突然変異法、交雑法、DNA育種法などの育種法 ・育種の効果 ・種と品種の関係 3. 植物の形態の多様性と用語 ・葉、根、花の形態とその呼び名 ・作物のタネの観察 4. 植物の栄養・生殖生理 ・光合成の仕組み、温度、光強度、日長と植物の反応 ・結実生理 ・休眠生理		
教材	テキスト、パワーポイント資料				
備考					



記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-3	1年生	必修	座学	9.0	栗田公司
到達目標	1.土壌の種類と特性、土壌の診断方法、土壌に関わる用語を理解する。 2.肥料の種類とその特性を理解する。 3.施肥設計を習得する。 4.土壌管理技術を理解する。 5.有機質肥料とその使い方を習得する				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	有機農業の基礎	土壌肥料I	1. 土壌の種類と農業上の特性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌生成過程と地質年代</li> <li>・土性とは何か、その診断方法</li> <li>・庄内地域における耕地土壌の種類と利用状況</li> </ul> 2. 土壌の診断方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌断面構造</li> <li>・土壌化学性と簡易診断法</li> <li>・土壌物理性の3要素</li> <li>・土壌の生物性</li> </ul> 3. 肥料とはなにか <ul style="list-style-type: none"> <li>・作物成長と必要成分</li> <li>・肥料の種類と使用方法</li> </ul> 4. 施肥設計 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作物別肥料吸収量の違い</li> <li>・使用肥料の選定と使用量の算出</li> <li>・施肥設計の立て方</li> </ul>		
教材	テキスト、パワーポイント資料、PH,EC測定器				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-4	1年生	必修	座学	12.0	栗田公司
到達目標	1.農薬とはなにか、農薬使用に関わる農家が順守すべき事項を理解する 2.病虫害発生の仕組みを理解し、農薬に頼らない防除法の基本を習得する 3.安全安心な農薬の使用法を習得する				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	有機農業の基礎	作物保護I	1. 農薬とはなにか <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業に関わる法律と登録の仕組み</li> <li>・農薬の種類</li> <li>・ポジティブリスト制度</li> <li>・有機栽培で使用できる農薬</li> </ul> 2. 病虫害発生の仕組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・病虫害発生の3要因</li> <li>・耕種的防除法</li> <li>・その① 主因の対策</li> <li>・その② 素因の対策</li> <li>・その③ 誘因の対策</li> </ul> 3. 害虫の発生と防除法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害の多い鱗翅目害虫</li> <li>・アブラムシとハダニ類</li> <li>・土壌センチュウの被害と対策</li> </ul> 4. 病害の種類と防除法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カビ病</li> <li>・細菌病</li> <li>・ウィルス病</li> </ul> 5. 薬剤の使用法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・剤の選定</li> <li>・薬剤の混用処理</li> <li>・薬液の作成法</li> </ul>		
教材	テキスト、パワーポイント資料				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-5	1年生	必修	座学	3.0	農政企画課 古野伸典
到達目標	施設園芸の種類と特徴について知識を得るとともに、暖房、冷房等の環境制御の基本技術を学ぶ				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	有機農業の基礎	施設園芸	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設園芸の種類と特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸用施設の種類と特徴</li> <li>・園芸用施設の強靱化対策</li> <li>・換気と保温</li> </ul> </li> <li>2. 環境制御の基本技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・暖房、冷房、循環扇</li> <li>・二酸化炭素施用</li> <li>・制御と見える化</li> </ul> </li> </ol>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-6	1年生	必修	座学	12.0	結城和博
到達目標	イネの生長について知るとともに、持続的生産が可能な水田稲作に関して栽培技術の基本となる考え方、その裏付けとなる作物学的知見や基本的な形態について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	栽培基礎	水稻栽培I	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イネの基本的な姿と生長・形態</li> <li>2. 育苗・移植 種子予措・苗の種類・栽植密度</li> <li>3. 分けつ期・幼穂形成期 茎数の増加と幼穂の分化と発達</li> <li>4. 出穂期・登熟期 出穂・開花と玄米の発達</li> <li>5. 本田管理 施肥法と水管理</li> <li>6. 土壌・病害虫・雑草 水田土壌の特徴、病害虫・雑草とその防除</li> <li>7. 収穫・乾燥・調製 収量構成要素と共同乾燥調製貯蔵施設</li> <li>8. 品質・食味 米の形質と食味特性</li> <li>9. 品種 品種の特性と奨励品種</li> <li>10. 品種開発 育種法と品種の変遷</li> </ol>		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-7①	1年生	必修	座学	28.5	栗田公司
到達目標	1.野菜色々な区分方法を理解し、野菜栽培の基礎知識とする。 2.気象条件の違いによる野菜産地の成立条件を理解する。 3.野菜の作型の種類を理解する。 4.露地野菜の基本的作業技術を習得する。 5.野菜の育苗の目的と苗の種類を理解し経営への導入可能性を探る。 6.野菜の主要品目について庄内地域における栽培方法を理解する。 7.研修生の実習品目について栽培技術を理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	栽培基礎	野菜栽培I	1. 野菜の種類と分類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物分類による区分</li> <li>・利用部位による区分</li> <li>・生産・流通による区分</li> </ul> 2. 気象条件と野菜の栽培 <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度環境 光環境（光強度、日長）</li> <li>・水環境と風の強度</li> <li>・山形県の気象特性と野菜産地の成立</li> </ul> 3. 野菜の作型 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作型の定義</li> <li>・露地、ハウス、トンネル栽培の特性と活かし方</li> </ul>		
教材	教科書「野菜栽培の基礎」、テキスト、パワーポイント資料、各種農機具、農業資材				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-7②	1年生	必修	座学	28.5	栗田公司
到達目標	1.野菜色々な区分方法を理解し、野菜栽培の基礎知識とする。 2.気象条件の違いによる野菜産地の成立条件を理解する。 3.野菜の作型の種類を理解する。 4.露地野菜の基本的作業技術を習得する。 5.野菜の育苗の目的と苗の種類を理解し経営への導入可能性を探る。 6.野菜の主要品目について庄内地域における栽培方法を理解する。 7.研修生の実習品目について栽培技術を理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	栽培基礎	野菜栽培I	4. 野菜の育苗 <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗の目的</li> <li>・苗の種類</li> <li>・培養土の種類と使い方</li> <li>・果菜類の接ぎ木育苗</li> </ul> 5. 野菜の栽培計画の立て方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作型の選定</li> <li>・品種の選び方</li> <li>・施肥設計</li> <li>・病虫害防除計画</li> <li>・作業工程表</li> </ul> 6. ウリ科野菜の基本技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内のメロン導入経過と栽培技術</li> <li>・キュウリの半促成栽培法</li> </ul>		
教材	教科書「野菜栽培の基礎」、テキスト、パワーポイント資料、各種農機具、農業資材				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-7③	1年生	必修	座学	28.5	栗田公司
到達目標	1.野菜色々な区分方法を理解し、野菜栽培の基礎知識とする。 2.気象条件の違いによる野菜産地の成立条件を理解する。 3.野菜の作型の種類を理解する。 4.露地野菜の基本的作業技術を習得する。 5.野菜の育苗の目的と苗の種類を理解し経営への導入可能性を探る。 6.野菜の主要品目について庄内地域における栽培方法を理解する。 7.研修生の実習品目について栽培技術を理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	栽培基礎	野菜栽培I	7. ナス科野菜の基本技術 ・トマトの生育特性と栽培 ・ナスの生育特性と栽培 8. イモ類の基本技術 ・サトイモの栽培技術 ・サツマイモの栽培技術 9. 研修生実習品目の栽培技術 ・基本特性と栽培法 ・経営と導入計画		
教材	教科書「野菜栽培の基礎」、テキスト、パワーポイント資料、各種農機具、農業資材				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-8	1年生	必修	座学	9.0	清野 仁
到達目標	山形県の主要果樹について、品種の動向、販売価格、部位の名称等を学ぶとともに、樹種ごとにその栽培法のポイントについての知識を得る				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業の基礎知識	有機農業の基礎	果樹栽培I	1. 山形県の果樹栽培について ・ぶどうの栽培 ・かきの栽培 ・日本なし、西洋なしの栽培		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
D-1	1年生	必修	座学	3.0	J A庄内たがわ/SEADS
到達目標	小型、主要機械の基本的な操作方法の取得				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業機械講習	主要機械	基本操作、 作業技術	農業機械の基本操作、作業技術について基本事項を学習する。		
教材	主要機械				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
D-2	1年生	必修	座学	3.0	J A庄内たがわ/SEADS
到達目標	小型、主要機械の基本的なメンテナンス方法の取得				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業機械講習	主要機械	基本操作 作業技術 メンテナンス	小型農業機械のメンテナンスについて基本事項を学習する。		
教材	主要機械				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
E-1	1年生	必修	座学	3.0	農業技術普及課
到達目標	食品加工に関する基礎的な知識について学ぶとともに、6次産業化に取り組む共同利用加工施設を見学し、食品を商品化するまでの流れを理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業関係法令・認証	法令・認証	食品表示法	<ol style="list-style-type: none"> <li>食品を加工販売するために必要なこと <ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工起業の流れ（営業許可の取得）</li> <li>食品加工に関連する法律（食品衛生法、食品表示法、製造物責任法、JAS法、景品表示法等について）</li> </ul> </li> <li>施設見学（共同利用加工施設：クラッセ） <ul style="list-style-type: none"> <li>加工機械の説明、会員登録や利用方法、商品化事例紹介など</li> </ul> </li> </ol>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
E-2	1年生	必修	座学	3.0	県産米ブランド課
到達目標	農産物検査法、米の農産物規格の概要について学び、農産物検査を要件としている施策との関連を理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業関係法令・認証	法令・認証	農産物検査法	<ol style="list-style-type: none"> <li>農産物検査法の概要</li> <li>米の農産物規格（検査項目）</li> <li>農産物検査を要件としている施策</li> <li>農産物規格・検査に関する見直し</li> <li>近年の山形県の検査状況（水稲うるち玄米）</li> </ol>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
E-3	1年生	必修	座学	3.0	農業技術環境課
到達目標	GAP、HACCP概要と取組のポイントについて学ぶとともに、その実践事例を通して、就農後に「GAPをする」機運を醸成する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業関係法令・認証	法令・認証	GAP・HACCP	<ol style="list-style-type: none"> <li>GAPとは何か <ul style="list-style-type: none"> <li>GAPを巡る情勢</li> <li>様々なGAP、山形県GAP</li> </ul> </li> <li>具体的な取組みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>食品安全、環境保全、労働安全</li> <li>人権保護、農場経営管理</li> </ul> </li> <li>HACCPとは何か</li> <li>具体的な取組みについて</li> </ol>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
E-4	1年生	必修	座学	4.5	農業技術環境課、武田壮一
到達目標	環境保全型農業に係る施策の変遷、有機農業の推進に関する法律について学ぶとともに、有機農業の現状と推進施策、山形県における取組経過及び有機農産物関係法令について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業関係法令・認証	法令・認証	特裁・有機認証	<ol style="list-style-type: none"> <li>有機農業をはじめとした環境保全型農業の変遷</li> <li>有機農業を巡る事業</li> <li>有機農業の推進施策</li> <li>有機農産物関係法令の解説</li> </ol>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
F	1年生	必修	座学	39.0	産地研究室、生産法人、農産物加工所
到達目標	県内の先進農家の事例や品目別の栽培方法、研究機関等の視察により、目指す就農ビジョンの具体化に繋げる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
視察研修	農業法人、 公的機関、 食品加工法人、 先進農家	県内全域	4月 水稻催芽施設、米倉庫 5月 県園芸農業研究所 7月 選果場（枝豆・メロン）、水稻視察 8月 産地研究室 9～10月 野菜農家、県水田農業研究所 12月 野菜加工施設 1月 加工施設 他		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-1	1年生	必修	座学	3.0	鶴岡市、農業委員会他
到達目標	認定農業者制度、農業法人制度や就農支援制度について学び、就農計画を作成する				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住 支援	農地・営農 資金・各種 補助制度	土地貸借要件 他	1. 認定農業者制度、農業法人制度の概要 2. 農地制度、農業委員会制度、農地法・農業経営基盤強化促進法の概要		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					



記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-2	1年生	必修	座学	18.0	SEADS事務局
到達目標	就農計画の作成に向けて、タイムリーに情報交換を行い逐次に計画のブラッシュアップを図る				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住支援	就農相談	個別面談等	研修内容の進捗確認、就農計画の策定		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-3	1年生	必修	座学	12.0	農業士会、アグリユース、JA青年部等
到達目標	地域農業の担い手・リーダー・農業士・JA生産組織等との交流を通じて、地域社会生活に必要な知識、情報等を習得するとともに、農業経営者としての資質向上を図る				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住支援	農業者交流	地元農業者組織	1. 先進農業経営事例研究 2. 地域農業経営事例研究		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-4	1年生	必修	座学	7.5	健康課
到達目標	うつ病の理解や、ストレスとの付き合い方などを学び、元気なこころ・からだで過ごすためにできることを考える。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住支援	こころとからだの健康相談	健康相談	[1年生] [2年生] 共通 1. うつ病の理解とこころのサポーターの役割について 2. 「こころとからだの健康相談」(個別)		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
H	1年生	必修	座学	140.0	SEADS事務局
到達目標	1. 野菜の栽培を実践し技術を習得する。 2. 野菜栽培の作業技術を習得する。 3. 導入希望品目の栽培計画を立て実践できるようになる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
集合研修	SEADS農場、圃場	栽培研修他	1. 野菜栽培の作業技術 ・うね立て法 ・マルチ被覆技術 ・トンネル設置法 2. 育苗の実際 ・野菜の播種方法 ・移植方法 ・温度管理の基本 ・省力化技術 3. 研修生希望品目の栽培 ・栽培管理 ・病虫害対策 ・収穫と利用 ・あとかたづけ		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
I	1年生	必修	座学	34.5	SEADS事務局
到達目標	座学や実習での研修内容を深く掘り下げ、問題の課題を抽出し、解決策を取得する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
ふりかえり	ふりかえり	ふりかえり	実習先での研修内容の擦り合わせを行うことによって、様々な栽培方法を取得する。		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
J-1	1年生	必修	座学	54.0	地域定住農業者育成コンソーシアム
到達目標	優れた経営感覚と販売ノウハウを身に付ける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
外部講義	食と農のビジネス塾	①基礎 ②経営 ③加工 ④販売 ⑤農業技術	別紙のとおり		
教材					
備考	食と農のビジネス塾カリキュラムに則る				

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
J-2	1年生	必修	座学	18.0	農業技術普及課
到達目標	新規就農者の農業経営の実践力を身につけるため、複式簿記について理解し、会計ソフトを活用した決算書作成や経営分析ができるようになる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
外部講義	農業経営実践講座	複式簿記I	1. 貸借対照表と損益計算書 2. 仕訳 3. 仕訳と転記 4. 決算整理仕訳 5. 会計ソフトの操作①（ソリマチ農業簿記） 6. 会計ソフトの操作②（ソリマチ農業簿記）		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
J-3	1年生	必修	座学	27.0	庄内農業高校
到達目標	「果樹に触れる」ことをテーマとした体験的な研修を通して、庄内地域での果樹栽培を理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
外部講義	果樹講義	果樹栽培技術	[時期及び内容] 5月 ブドウハウスの展開 6月 オウトウ収穫・リンゴ（カキ）摘果 7月 ブドウ房作り・リンゴ・カキ摘果 9月 ブドウ・リンゴ収穫 10月 リンゴ収穫 12月 剪定 3月 剪定		
教材					
備考	庄内農業高校の果樹園での研修				

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
K-1	1年生	必修	座学	7.5	鶴岡市主催（業務委託先；（株）ファームフロンティア）
到達目標	<p>水稻の安定供給と農業経営の安定化を目指し、スマート農業と農業技術、基礎となる土づくりの重要性を学び自ほ場の土の状態を知る。</p>				
大項目	中項目	小項目	詳細		
一般公開講座	鶴岡市主催	スマート農業×土づくり講座～水稻のみらいを繋ぐ～	第1回 「スマート農業とは～ICT農業と農業の原点～」 第2回 「気象を読み解く」 第3回 「稲作と農業機械の現状」 第4回 「土づくりの科学」 第5回 「今年度の総括と次年度に向けた対策」		
教材	講義毎に資料を配布。その他、土壌分析希望者を対象に土壌分析キット（有料）を配布予定。				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
K-2	1年生	必修	座学	10.5	鶴岡市主催（業務委託先；山形大学農学部他）
到達目標	<p>農業者などの個々の取組みを学ぶ「個人対策技術コース」と、地域での取組みを進める「地域対策コース」を設け、地域での鳥獣被害対策の意識を高める。</p>				
大項目	中項目	小項目	詳細		
一般公開講座	鶴岡市主催	鳥獣被害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サル、イノシシ、クマの生態と被害対策</li> <li>・電気柵の設置方法 他</li> </ul>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
K-3	1年生	必修	座学	16.5	鶴岡市共催（業務委託先；県園芸農業研究所他）
到達目標	有機農業取組面積を広げ、作目を拡大していくためには、経験による営農から科学的な知見に基づく営農の普及が重要である。市内の有機農業取組者の技術向上と新規取組者の掘り起こしとともに、有機農業者同士の交流、ネットワークづくりを目指す。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
一般公開講座	鶴岡市共催	有機農業	第1回 「有機水稻」の栽培技術について 第2回 「有機枝豆」の栽培技術について 第3回 「有機野菜」の栽培技術について（視察） 第4回 「有機の土壌肥料、害虫対策」について 第5回 「有機の土づくり」について		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
L	1年生	必修	座学	960.0	複合経営農家
到達目標	複合経営農家における農作業を通じて水稻、園芸栽培の基本技術を習得する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
実習	農家実習	水稻、園芸品目の複合経営農家	複合経営農家において水稻、園芸品目の栽培技術、作業技術、経営の基本の取組み。		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
A-1	2年生	必修	座学	4.5	SEADS事務局
到達目標	SEADS研修生としての自覚を持つ。また、SEADS研修生として「学んでいく」「地域に入っていく」素地を身に付ける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
オリエンテーション	SEADS	入校式・ガイダンス・修了式	1. 入校式 2. ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者紹介</li> <li>・研修について</li> <li>・生活について</li> <li>・研修生としてのマインドセット</li> </ul> 3. 修了式		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
A-2	2年生	必修	座学	1.5	SEADS協定事業者代表
到達目標	「農業の人材育成・確保に関する協定」締結8者のうち、5事業者代表による講話を通して、学校の意義・役割、自分たちがどんな期待を受けているか把握する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
オリエンテーション	協定者代表の講話	協定代表者	鶴岡市長		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-1	2年生	必修	座学	63.0	ヤマガタデザイン(株) (株)たくらみ屋 (株)食農夢創
到達目標	経営初期に課題になる実務的な内容について把握し、適切なひとや情報源を頼りながら、自分でできるようにする。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	経営実務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材（採用、労務管理、人事制度）</li> <li>・営業（アポイント〜クロージング、顧客管理システム）</li> <li>・総務（ツール導入、規定整備、法人登記）</li> <li>・財務会計（ツール導入、金融機関対応、TOC/MQ会計）</li> <li>・法務知財（契約全般、コンプライアンス、知財管理）</li> <li>・広報（WEBサイト開設、SNS運用、メディア連携）</li> </ul>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考	講師： ヤマガタデザイン株式会社職員等				

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-2	2年生	必修	座学	1.5	SEADS校長
到達目標	経営者としての心構えを身につける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	講話I	SEADS校長から経営や地域課題等についてのテーマを出し、そのテーマをもとに自身が課題に思っているテーマ等について、ディスカッションを行う。		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					



記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-3	2年生	必修	座学	1.5	講師は、農業分野にかかわらずオムニバスのに選任する。
到達目標	経営者としての心構えを身につける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	講話II	地域の経営者/起業家（農業に限らない）から講演をいただき、経営者として、何を目指し、どのような事業をおこなっているのかを聞き、自身の農業経営について考える。		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
B-4	2年生	必修	座学	48.0	農業技術普及課、JA鶴岡、JA庄内たがわ、YD
到達目標	翌年度以降の月次のキャッシュフローを含めた事業計画を完了させるとともに、「チーム農業」の重要性を知る。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業経営	経営技術	営農計画書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで農業をする重要性と、農業をする上でのポイント</li> <li>2. 人員計画の策定、採用、労務時間の集計と評価</li> <li>3. 月次キャッシュフロー計画の重要性の理解および、作成</li> </ol>		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考	WITH FARMER 代表 平戸裕馬 他				

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-1	2年生	必修	座学	22.5	西澤 隆
到達目標	植物の基礎的な生理を学習することで、作物を栽培する際に何をどのようにしたら良いかを、科学的知見に基づき判断できるようになる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業技術	有機農業の応用	植物生理II	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植物にとっての光合成 植物は何故平面的に進化したのか？</li> <li>2. 葉の構造と光合成 何故葉には柵状組織と海綿状組織があるのか？</li> <li>3. 葉緑体と光合成 何故植物の細胞は異種の生物の共生によってできたと言えるのか？</li> <li>4. 気孔と蒸散・呼吸 何故植物には節水のシステムがないのか？</li> <li>5. 根と水ポテンシャル 何故植物は萎れても元に戻るのか？</li> <li>6. 光合成産物の転流と 何故光合成産物は葉以外の場所に運ばれるのか？</li> <li>7. 光合成産物の貯蔵 何故イモにはデンプンが、果実には糖が多いのか？</li> <li>8. 細胞壁 何故セルロースを分解出来る動物が存在しないのか？</li> <li>9. 生殖 何故、植物はコケ植物、シダ植物、裸子植物、被子植物の順に進化したのか？</li> <li>10. 器官発生 何故植物の数は数えられないのか？</li> <li>11. 発芽と休眠・春化・頂芽優勢 何故植物には神経系が存在しないのか？</li> <li>12. 温度に対する生理反応 何故植物は極寒条件下でも生きられるのか？</li> <li>13. 光に対する生理反応 何故熱帯雨林の木は種類が違っても同じような高さなのか？</li> <li>14. 植物ホルモン 何故植物は成熟すると柔らかくなるのか？</li> <li>15. 植物工場と環境制御 環境制御技術を利用した植物生産の現状と課題について概説します。</li> </ol>		
教材	山本良一編著「絵とき 植物生理学入門（改訂3版）」 オーム社				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-2	2年生	必修	座学	12.0	安藤 豊
到達目標	土壌を科学的にとらえ、農業生産に必要な知識を学び、環境保全に配慮した施肥法について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業技術	有機農業の応用	土壌肥料II	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土壌？ 水田土壌における窒素動態、栽培における施肥技術について</li> <li>2. 砂丘地土壌の特徴 I.砂丘土壌と肥料成分の動態 II.施用有機物の役割</li> <li>3. 砂丘地土壌の特徴 II.施用有機物の役割</li> <li>4. 水田土壌と畑土壌の違いについて</li> </ol>		
教材	土壌サイエンス入門第2版 木村真人・南條正巳編 文永堂				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-3	2年生	必修	座学	9.0	大場伸一、卯月恒安
到達目標	1. 農業に取り組む意味を考える。 2. 有機農業に取り組む際の具多的な基本技術を習得する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業技術	有機農業の応用	作物保護II	1. 農村の暮らしと農業を知る。(I) (集落の仕組み、暮らしと農業生産の関りを理解する) 2. 農村の暮らしと農業を知る。(II) 3. 有機農業技術の基本を理解する。(畑作) 4. 有機農業技術の基本を理解する。(稲作) 5. 水稲有機栽培における雑草防除を理解する。(稲作) 6. 有機農業技術の基本と病虫害防除を理解する。(有機農業に必要な武器)		
教材	「有機農業大全」澤登早苗・小松崎将一編著 コモンス 「植調 雑草大鑑」浅井元朗著 全国農村教育協会				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-4	2年生	必修	座学	10.5	結城和博
到達目標	水稲栽培について、気象、土壌等の環境条件から技術のポイントを理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業技術	栽培管理	水稲栽培II	1. 品種の物語 ササニシキの時代・はえぬきの時代 2. 水稲有機栽培の手引き (県産米ブランド推進課 課長補佐 中川文彦) 3. やまがたの米づくりの技術的特徴 良質米の安定生産・生育診断 4. 米づくりと災害・被害 冷害と高温障害		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-5	2年生	必修	座学	43.5	栗田公司、産地研究室
到達目標	1.野菜の最新栽培技術を理解する 2.研修生各自が取り組む野菜について ①栽培技術を習得する。 ②栽培・経営計画作成能力をつける。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業技術	栽培管理	野菜栽培II	1. 野菜の養液栽培の基本技術 ・水耕栽培の基本技術と栽培法 ・養液土耕栽培法 2. 施設栽培の自動化技術 ・温度管理の自動化 ・かん水の自動化 ・炭酸ガス施用技術 ・光環境制御法 3. 選択品目の栽培技術 ・生育診断法 ・品質向上対策 ・病虫害対策 4. 選択品目の栽培・経営計画の作成 ・栽培計画書作成 ・経営計画書の作成		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
C-6	2年生	必修	座学	9.0	佐藤康一、産地研究室
到達目標	果樹栽培について、庄名地域を代表する樹種の技術のポイントを現地事例調査とともに学ぶ。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
農業技術	栽培管理	果樹栽培II	1. 柿 2. ぶどう 3. なし（西洋、日本） 4. さくらんぼ		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
F	2年生	必修	座学	27.0	産地研究所、生産法人、農産物加工所
到達目標	県内の先進事例地や品目別の栽培方法、研究機関等の視察により、目指す就農ビジョンの具体化に繋げる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
視察研修	農業法人・ 公的機関	県債全域	希望を踏まえたオーダーメイド型視察研修 (先進事例地等)		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-1	2年生	必修	座学	1.5	農業委員会、農政課、地域振興課
到達目標	認定農業者制度、農業法人制度や就農支援制度について学び、就農計画を作成する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住 支援	農地・営農 資金・各種 補助制度	土地貸借要 件他	就農支援制度の概要		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-2	2年生	必修	座学	18.0	SEADS事務局
到達目標	就農計画の作成に向けて、タイムリーに情報交換を行い逐次に計画のブラッシュアップを図る。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住支援	就農相談	個別面談等	就農に向けた具体的な課題整理		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-3	2年生	必修	座学	6.0	農業士会、アグリユース、JA青年部等
到達目標	地域農業の担い手・リーダー・農業士・JA生産組織等との交流を通じて、地域社会生活に必要な知識、情報等を習得するとともに、農業経営者としての資質向上を図る。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住支援	農業者交流	地元農家組織	1. 先進農業経営事例研究 2. 地域農業経営事例研究		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
G-4	2年生	必修	座学	7.5	健康課
到達目標	うつ病の理解や、ストレスとの付き合い方などを学び、元気なところ・からだで過ごすためにできることを考える。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
就農・定住支援	こころとからだの健康相談	健康相談	[1年生] [2年生] 共通 1. うつ病の理解とこころのサポーターの役割について 2. 「こころとからだの健康相談」 (個別)		
教材	講義毎に配布資料あり				
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
H	1年生	必修	座学	140.0	SEADS事務局
到達目標	1. 野菜の栽培を実践し技術を習得する。 2. 野菜栽培の作業技術を習得する。 3. 導入希望品目の栽培計画を立て実践できるようになる。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
集合研修	SEADS農場、圃場	栽培研修他	1. 野菜栽培の作業技術 ・うね立て法 ・マルチ被覆技術 ・トンネル設置法 2. 育苗の実際 ・野菜の播種方法 ・移植方法 ・温度管理の基本 ・省力化技術 3. 研修生希望品目の栽培 ・栽培管理 ・病虫害対策 ・収穫と利用 ・あとかたづけ		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
J	2年生	必修	座学	3.0	農業技術普及課
到達目標	新規就農者の農業経営の実践力を身につけるため、確定申告（青色）について理解する。				
大項目	中項目	小項目	詳細		
外部講義	農業経営実践講座	複式簿記II	1. 複式簿記の復習・青色申告① 2. 青色申告②・消費税について		
教材					
備考					

記号	学年	区分	講義形態	講義時間数	講師
L	2年生	必修	座学	1080.0	実践農家
到達目標	実践農家において、就農時の作目の栽培方法や経営について、実践技術を習得する。 1 栽培技術、2 作業技術、3 経営能力				
大項目	中項目	小項目	詳細		
実習	農家実習	オーダーメイド型実習	希望研修品目に応じたオーダーメイド型実習 (例) メロン、えだまめ、さつまいも、さといも、ミニトマト、庄内柿、水稻		
教材					
備考					